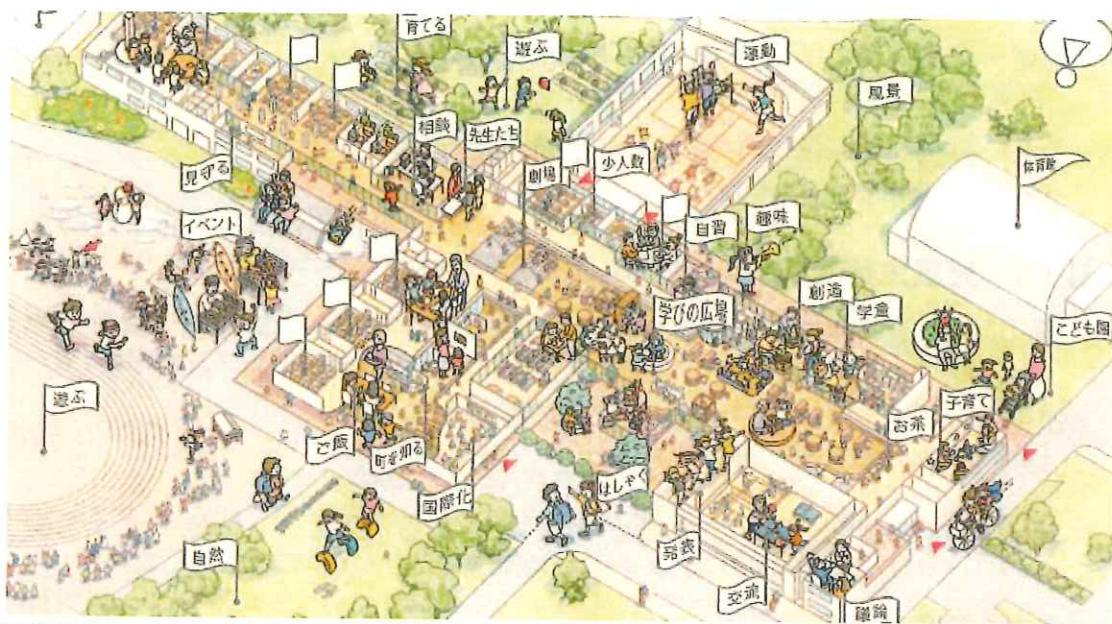


コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で取り組む

北海道中頓別町 人生100年の学びの場づくり | 中頓別町では、「3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることができる学びの拠点」を目指し、構想・計画の段階から住民参加型で検討を進めた。

地域でどんな教育をしたいかを、顔見知りの町民と議論

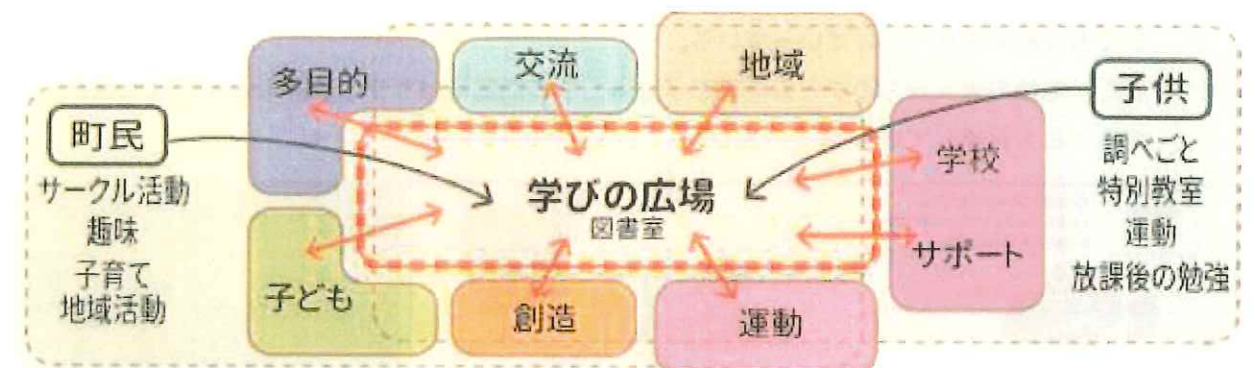
- ・中頓別町は、人口はコンパクト（約1,550人）で町民は顔見知りの間柄である一方、最寄りの駅や総合病院に行くためには車で町外に出る必要がある。町内に小中学校は各1校で、各学年1学級。
- ・中学校校舎の老朽化が課題となる中、単に建物の検討に終始するのではなく、町として幼児期からの自然と英語を柱にした教育に取り組んできた流れを受け、地域でどんな教育を実現したいかという根っこの部分から、町の学校（小学校、中学校）及び公共施設（町民センター）の機能の在り方についての協議を進めることにした。
- ・町では、基本計画策定に向けて、コミュニティデザインの専門家を迎え、ヒアリング調査・勉強会・ワークショップなど、各プロセスにおいて、様々な住民参加の機会をつくった。



新しい学校のイメージ図

大人が学ぶことを本気で楽しんでいる環境

- ・小学校と中学校を統合した義務教育学校の整備に伴い、生涯学習センターの中に学校を組み込み、子どもたちの活動が地域社会に展開するような新しい時代の学びの場の計画づくりを目的とした。地域の大人が学ぶことを本気で楽しんでいる環境の中に子どもたちをおき、ともに学び続けられる場づくりを進めることを意図している。
- ・四方から子どもも大人も集まる場所が、自分の好きなことが見つかり、誰かと何かをやる場になるよう、「学びの広場」と称して、本との対話ができる小空間や、人との対話や交流ができるスペースを配置する計画としている。
- ・特別教室を「学びの広場」に面するように一体的に配置し、児童生徒と町民が日常的に共有する空間とする予定。



新しい学校の構成図



施設の設計についても地域住民と対話をしながら進めている

コミュニティデザインとは

デザインの力を使って、地域の課題を地域に暮らす人たちが解決するよう支援すること。人がつながる仕組み作りや担い手育成などの「見えないデザイン」から、その中で生じたプロセスや成果を見える化する「見えるデザイン」まで多岐に渡る。